

2022年3月22日



一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

2022年2月 マンスリー レポート

集計企業数 50 社

①売上高・前年同月比

	全店			既存店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	57,695,935 万円	100.0%	102.0% (99.2%)	55,552,428 万円	100.8% (98.2%)
食 料 品	50,956,152 万円	88.3% (86.4%)	102.9% (99.3%)	48,925,775 万円	101.4% (98.0%)
農 産	7,606,493 万円	13.2% (12.8%)	103.6% (98.4%)	7,205,602 万円	102.2% (97.2%)
水 産	4,584,784 万円	7.9% (8.3%)	100.0% (99.0%)	4,414,990 万円	98.5% (97.7%)
畜 産	6,565,517 万円	11.4% (11.6%)	102.8% (98.0%)	6,321,817 万円	101.2% (96.6%)
惣 菜	6,308,664 万円	10.9% (10.4%)	105.9% (105.5%)	6,044,096 万円	103.9% (103.7%)
日配食品	11,285,281 万円	19.6% (19.2%)	103.0% (98.8%)	10,866,084 万円	101.5% (97.5%)
加工食品	14,605,413 万円	25.3% (24.0%)	102.1% (98.4%)	14,073,185 万円	100.9% (97.4%)
生活関連	3,244,388 万円	5.6% (6.1%)	100.2% (97.5%)	3,166,638 万円	99.7% (97.0%)
衣 料 品	913,659 万円	1.6% (2.3%)	91.5% (98.3%)	904,543 万円	93.2% (100.4%)
そ の 他	2,581,735 万円	4.5% (5.2%)	93.3% (100.8%)	2,555,472 万円	94.3% (101.8%)

② 数 値

全店総売上高	57,695,935 万円	店舗数	4,987 店舗
総売場面積	10,000,429.2 m ²	総従業員数	274,186 人

店舗平均月商	11,569.3 万円	平均客単価 (前年同月比)	2,125.2円 (103.3%)
月間m ² 売上(前月)	5.8 万円 (6.1万円)	平均売場面積	2,005.3 m ²
月間坪売上(前月)	19.1 万円 (20.2万円)	パート比率(前月)	76.7% (77.2%)

注) 総従業員数・・・パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ◆ 天候について
 - ・ 気温
強い寒気の影響を受けた東日本、西日本で低かった
 - ・ 降水量
西日本でかなり少なく、沖縄・奄美地方ではかなり多かった
 - ・ 降雪量
東日本から西日本にかけての日本海側で多かった
 - ・ 日照時間
東日本太平洋側、西日本では多く、沖縄・奄美地方では少なかった
- ◆ 土日祝日の日数について
前年と同じであった
- ◆ 新型コロナウイルス関連
 - ・ 1日あたりの全国新規感染者数が5日に10万人を超え、末日時点で全国累計感染者数は500万人を超えた。まん延防止等重点措置は5日和歌山、12日高知が追加され、20日には沖縄、山形、島根、山口、大分で解除となった。その他対象地域は3月6日まで延長された
- ◆ 商品動向全体
 - ・ 新型コロナウイルス感染拡大によるまん延防止等重点の発令により、内食需要の高まりがみられた。客数は減少したが、まとめ買いによる客単価の増加がみられたとのコメントが多くみられた
 - ・ 気温が低かった地域では、鍋商材やおでん商材が好調であった。降雪予報による特需があったとのコメントもみられた

《 商品動向 》

○農産

- ◆ 相場状況（卸売価格）
 - ・ 野菜全体では、前年に比べて高値で推移。特にたまねぎ、だいこん、キャベツが高値であった
 - ・ 果物では、国産・輸入ともに前年に比べて高値で推移。特に国産ではりんご、輸入ではバナナが高値であった
- ◆ 商品動向
 - ・ じゃがいも、たまねぎなど土物類やキャベツが好調であった
 - ・ なす、ピーマンが不調とのコメントがみられた
 - ・ みかん、りんごは好調であったが、いちごは好不調が分かれた

○水産

- ◆ 相場状況（卸売価格）
 - ・ 前年に比べて高値で推移した
- ◆ 商品動向
 - ・ 刺身、塩干、水産部門で販売する寿司が好調であった。
 - ・ アサリは産地偽装問題の影響による販売一時見合わせや供給不安定等で、低調であったとのコメントがみられた

○畜産

◆ 相場状況（卸売価格）

- ・ 国産豚、鶏むね肉は、前年に比べて高値で推移した。和牛、鶏もも肉は安値で推移した

◆ 商品動向

- ・ 国産豚はスライス、切り落としを中心に好調であったが、鶏肉は低調であった
- ・ 加工肉は一部メーカーの値上げの影響により低調であったとのコメントがみられた
- ・ ひき肉は好不調が分かれた

○惣菜

- ・ 弁当類が好調であった
- ・ 天ぷらやスナックなど揚げ物が好調であった

○日配食品

- ・ 気温が低かった影響で練り物や麺類など鍋物商材が好調であった
- ・ 冷凍食品、和菓子が好調であったが、納豆、漬物、牛乳は低調であった
- ・ パン類は、一部メーカーの値上げの影響で売上点数は減っているものの、売上高は伸長したとのコメントがみられた

○加工食品

- ・ 鍋つゆが好調であった
- ・ 内食需要の高まりにより、菓子や缶詰、即席麺、カップ麺などが好調であった
- ・ 飲料、米は低調であった

○節分の動向について

- ・ 恵方巻の当日販売は全体的に好調であった。セット物や、海鮮巻を中心とした高単価品が好調であったとのコメントがみられた
- ・ 丸干、節分豆は好調であった

○バレンタインデーの動向について

- ・ 手作り商材は低調であった
- ・ 自分へのご褒美としての需要により、高単価商品は概ね好調であった